

年度目標

大阪市立弁天小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 一昨年度の全国学力・学習状況調査において、国語・算数の正答率が大阪市の平均を上回ったが、平均以上になることが少ない。また、大阪市学力経年調査においても、近年、標準化得点が100に届いていない。これらの結果から、昨年度に引き続き、基礎的、基本的な学習内容の確かな定着と自ら学び、自ら考える態度の育成と1時間1時間の授業の大切さを認識させることが課題である。また、生活指導上の子どものトラブルも起きている。学力向上と安心安全な生活環境づくりは欠かすことができない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成33年度(令和3年度)の全国学力・学習状況調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を、90%以上にする。 【項目なし】

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成33年度(令和3年度)の全国学力・学習状況調査における平均正答率を平成29年度より3ポイント向上させる。 【国語 61→52(-9) 算数 55→58(+3)】
- 平成33年度(令和3年度)の全国学力・学習状況調査における無回答率を平成29年度より4ポイント減少させる。 【国 2.8→4.8(+2) 算数 3.9→5.4(+1.5)】
- 平成33年度(令和3年度)の「全国体力・運動能力調査、運動習慣調査」における体力合計点を男女共に平成29年度より上回るようにする。 【男子 54.32→58.58(+4.26) 女子 54.32→55.22(+0.9)】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 【100%】
- 今年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則をまもっていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 【91%】
- 今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 【0件】
- 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 【+2名】

学校園の年度目標

- 令和3年度 全国学力・学習状況調査の児童質問紙において

- (1)「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 【項目なし】
- (2)「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 【69.5%】
- (3)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだとおもいますか」の項目について、肯定的な回答の割合を95%以上にする。 【95.1%】
- (4)「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を75%以上にする。 【73.2%】

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

【現4年 98.9→100.7(+1.8) 現5年 99.4→96.8(-2.6) 現6年 92.2→94.1(+1.9)】

- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。

【現4年 19.6→15.1(-3.1) 現5年 14.1→22.2(+8.1) 現6年 37.7→31.3(-6.4)】

- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。

【現4年 25.0→34.0(+9.0) 現5年 19.2→21.0(+1.8) 現6年 5.2→6.3(+1.1)】

- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

【65.0→75.5】

- 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。

【男子 16.85→19.38(+2.53) 女子 15.83→17.95(+2.12)】

学校園の年度目標

- 令和3年度「全国学力・学習状況調査」において 【昨年度未実施のため、一昨年度と比較】

- (1) 「国語・算数」の平均正答率を昨年度の大阪市平均より上回るようにする。

【国語 全国 59:本校 52(-7) 算数 全国 56:本校 58(+2)】

- (2) 「国語・算数」の平均無解答率を昨年度の大阪市平均より下回るようにする。

【国語 全国 2.8:本校 4.8(+2) 算数 全国 4.7:本校 5.4(+0.7)】

- (3) 「読書は好きですか」の項目において、肯定的な回答の割合を55%以上にする。

【項目なし】

- (4) 「授業でもコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか」の項目において、

肯定的な回答の割合を85%以上にする。

【項目なし】

- 令和3年度「小学校学力経年調査」において

- (5) 各学年の各教科の標準化得点を、同一母集団で比較し、
いずれの学年も前年度よりも向上させる。

同児童質問紙において

- (6) 「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、
自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、肯定的な回答の割合を、前年度より増加させる。(全市共通目標と同じ)

	R1	R2	R3
3年生	96.2	98.9	95.4
4年生	93.2	99.4	100.7
5年生	97.2	92.2	96.8
6年生	100.2	96.9	94.1

大阪市学力経年調査「年度ごとの標準化得点」

	R1	R2	R3
男子	54.98	50.32	58.58
女子	55.14	52.82	56.78

全国体力等調査「年度ごとの体力合計点」

- 令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において

- (7) 体力合計点を男女ともに前年度よりも上回るようにする。

最終評価

大阪市立弁天小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 ○ 今年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則をまもっていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90% にする。 ○ 今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○ 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和元3度「全国学力・学習状況調査」児童質問紙において</p> <p>(1)「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を 85% 以上にする。</p> <p>(2)「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的な回答の割合を 90% 以上にする。</p> <p>(3)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだとおもいますか」の項目について、肯定的な回答の割合を 95% 以上にする。</p> <p>(4)「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を 75% 以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>「いじめアンケート」を活用し、あがった事象について個別に聞き取り、解決についての取り組みを行う。特に落書き、もの隠しなどの陰湿的な事象が、児童の課題であることを共通認識し、その実践を進める。</p>	B
<p>指標 「いじめアンケート」を毎学期行い、あがった事象についての未解決事象を0にしていく。また、一人ひとりの児童との対話を大切にした実践を学期に一回以上行い、児童の本音を探っていくようとする。</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>不登校傾向児童に対して、校内の組織や子どもサポートネットや関係諸機関との連携を活用し、登校しやすい環境づくりに取り組む。</p>	C
<p>指標 不登校傾向にある児童について、生活指導推進委員会を活用して、背景分析や今後に向けてのプランニングを行う。継続される課題についてはケース会議を持つようとする。</p>	C
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>学校生活の様々な場面で自分から進んであいさつができる力を育てる。</p>	C
<p>指標 児童会を中心とした「あいさつ運動」を学期に1回以上行い、児童が自分からあいさつできるような雰囲気づくりを行う。</p>	C

<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>学校全体で、一人ひとりの違いを認め合い、豊かな人権感覚を養うとともに、「共に学び、共に育ち、共に生きる」ことを基本としたインクルーシブ教育の推進に取り組む。</p> <p>指標 自尊感情を育み、自他の尊重や共生社会の実現に向かうことをめあてとした実践(福祉・障がい者理解)を、すべての学年が年に1本以上行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>つながり方を工夫し、地域の方々との交流を深める。</p> <p>指標 地域とつながる実践を年に1回以上行う。</p>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①「いじめアンケート」をはじめ、道徳、総合の実践などでの対話を通して、児童の表面的な部分でなく、本音を吸い上げるよう努めてきた。</p> <p>②不登校児童については、日々の家庭訪問やリモートなどを活用し取り組んだことで、学級、学年とのつながりは保つことはできた。</p> <p>③「あいさつ運動」は計画していたがコロナの影響で学校全体としては2学期のみしか実施できなかつた。(3学期はbingoを実施)6年生を中心に、少しずつあいさつを意識している児童は増えたが、自分から進んで行う児童は少ない。</p> <p>④すべての学年が発達段階に応じた実践を計画し、取り組むことができた。</p> <p>⑤全学年で地域と交流を深める学習計画を、対面や訪問、リモート等多様な形で考え取り組みを進めてきたが、予定通り実施するまでには至ることができなかつた。</p>	
次年度への改善点	
<p>①毎年のことではあるが、落書き、もの隠しなどの陰湿的な事象が収まっているとは言えない。また未解決のまま次年度に持ち越されるケースも少なくない。児童を表面的な部分で見ないよう、本音の部分を探っていくこと同時に、事象が起こった時にどう対応し、どう解決していくかを探らなければならない。</p> <p>②学級、学年任せとなり、生活指導推進委員会を中心とした組織的な動きは作れていない。現状委員会の中での情報共有だけに留まっているので、それを全体化したり、ケース会議を持ったりするなど、組織的な動きを作る必要がある。</p> <p>③どの状況でも実施できるあいさつ運動を計画する必要がある。また、教職員同士、教職員から児童へのあいさつをするように、全員が同じように取り組む。あいさつの習慣を身につけさせるためには家庭や地域との連携も必要であるため、学校だよりや人権だより「つながり」で学校の方針や取り組みを発信してはどうか。</p> <p>④次年度も実践を行う。数年分の資料を残しているので、系統性をもたせた指導計画・教材を整理し、引き継いでいけるようにする。また、新たな教材開発を進める。</p> <p>⑤今年度はリモートでの取り組みを計画した学年もあったが、設備の問題でうまくできなかつた。対面での会を催すことが不可能だったので、ポスティングに替えた学年もあった。このように、今後もその時の状況に合わせて方法を模索しながら、地域とつながった学校運営に取り組んでいきたい。</p>	

最終評価

大阪市立弁天小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																				
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】																					
全市共通目標																					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ○ 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ○ 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。 																					
学校園の年度目標																					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度「全国学力・学習状況調査」において <ul style="list-style-type: none"> (1) 「国語・算数」の平均正答率を昨年度の大阪市平均より上回るようにする。 (2) 「国語・算数」の平均無解答率を昨年度の大阪市平均より下回るようにする。 (3) 「読書は好きですか」の項目において、肯定的な回答の割合を55%以上にする。 (4) 「授業でもコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか」の項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 	B																				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度「小学校学力経年調査」において <ul style="list-style-type: none"> (5) 各学年の各教科の標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりも向上させる。 	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年生</td><td>96.2</td><td>98.9</td><td>95.4</td></tr> <tr> <td>4年生</td><td>93.2</td><td>99.4</td><td>100.7</td></tr> <tr> <td>5年生</td><td>97.2</td><td>92.2</td><td>96.8</td></tr> <tr> <td>6年生</td><td>100.2</td><td>96.9</td><td>94.1</td></tr> </tbody> </table>		R1	R2	R3	3年生	96.2	98.9	95.4	4年生	93.2	99.4	100.7	5年生	97.2	92.2	96.8	6年生	100.2	96.9	94.1
	R1	R2	R3																		
3年生	96.2	98.9	95.4																		
4年生	93.2	99.4	100.7																		
5年生	97.2	92.2	96.8																		
6年生	100.2	96.9	94.1																		
同児童質問紙において	大阪市学力経年調査「年度ごとの標準化得点」																				
<ul style="list-style-type: none"> (6) 「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、肯定的な回答の割合を、前年度より増加させる。（全市共通目標と同じ） 																					
○ 令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において																					
<ul style="list-style-type: none"> (7) 体力合計点を男女ともに前年度よりも上回るようにする。 	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男子</td><td>54.98</td><td>50.32</td><td>58.58</td></tr> <tr> <td>女子</td><td>55.14</td><td>52.82</td><td>56.78</td></tr> </tbody> </table>		R1	R2	R3	男子	54.98	50.32	58.58	女子	55.14	52.82	56.78								
	R1	R2	R3																		
男子	54.98	50.32	58.58																		
女子	55.14	52.82	56.78																		
	全国体力等調査「年度ごとの体力合計点」																				

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 子どもたちが学習に集中し、確かな学力向上に向けて、全校で5分間の視写と5分間の微音読に取り組む。	B
指標 全学年の児童が、毎週水曜日の朝に、継続して視写と微音読に取り組む。	
取組内容②【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 読解力向上のため、学校図書館を最大限に利用する。	B
指標 読書タイムや図書の時間、図書館開放などをを利用して、それぞれの学年の子どもたちの発達段階に応じた本を紹介したり、静かに読んだりするようにする。	
取組内容③【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 自分の考えを様々な方法(話す・書くなど)で発表する力、人の話を聞いて、自分の考えと比べたりよりよい考えを作り出したりする力を身につけさせる。	B
指標 ハンドサインや「聞き方・話し方」のポイントを活用して、子どもたち一人ひとりが話し合い活動に意欲的に取り組めるようにする。	
取組内容④【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 英語の力を伸ばすために、毎週モジュールにより聞く力と声を出して話す力を向上させる。	B
指標 全学級が週二回の英語リッシャタイムを用いて英語活動を行う。	
取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICT(パソコンやタブレット)を活用した教育の推進を図る。	B
指標 全学級がICT(パソコンやタブレット)を活用した授業を年間計画に沿って行う。	
取組内容⑥【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 それぞれの文化の特徴を生かし、お互いの違いやよさを認め合い、思いやりと協力できる心の育成を図る。	B
指標 すべての学年が年一回以上の国際理解教育の取り組みを行う。	
取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育的行事や児童集会を活用して、児童の体力、運動能力を向上させる。	B
指標 児童の運動能力を向上させるため、年3回の委員会主体の体育的行事を計画的に行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 概ね、計画通りに取り組むことができた。	
② コロナ禍における対策をしながら、(3学期は図書館開放が行えなかつたが)各学年で取り組むことができた。	
③ それぞれの学年クラスで、概ね取り組むことができている。指標に関して、挙げている「ハンドサイン」がほとんど使っていない学年クラスがあり、指標から考えると「C」評価に値することが判明した。しかしながら、ハンドサインなどはあくまでツールの一つとして考え、「子どもたち一人ひとりが話し合い活動に意欲的に取り組めるようにする」が達成できればよいのではと考え、総合的に「B」評価とした。	
④モジュールにより、聞く力と声を出して話す力を向上させることができた。児童も英語に親しみ、楽しんで活動できていた。	
⑤ICT(パソコンやタブレット)を積極的に取り入れて授業を行うことができた。	
⑥各学年が年一回以上の国際理解教育を計画し、取り組みを行うことができた。	
⑦今年度もコロナウイルス感染防止の観点からの臨時休校や行動制限など、思うような体育的行事を	

行うことができていない。その中で、運動発表会を予定変更があつたものの、実施することができた。10月から緊急事態宣言が解除されたことにより、予定していた弁天アスレチックスやなわとび練習などを実施していき、児童の運動能力の向上を図る活動を実施していくことができた。新体力テストでは、大阪市の体力平均を大きく上回ることができた。継続的に体育的行事を行ってきたことが結果に結びついたと考えられる。

今後の改善点

- ① 学校全体で、取り組むことについては、取り組む時間を決め、できる限りその時間で取り組むよう にすることが大切であると考える。指標が「～に取り組む」となっているが、取り組むことによって 「板書を早く正しくノートに書くことができるようになる」や「正しく音読をすることができるようになる」 などさらに具体化した文言を盛り込んでいくことが必要ではないかと考える。
- ② 指標の文言で、一部主語が教職員と児童が入り混じっているので、主語を一つにした文言に 訂正する必要がある。また、一昨年度までは朝に「読書タイム」が設けられていたが、現在は位置付 けられていない。しかし、各学年クラスで工夫をして、子どもたちが本に親しむことができているの で、来年度も継続して取り組んでいく。
- ③ 話し合い活動では、児童生徒の発達段階から、どの学年も一律のゴールでは難しい。目指す子 も像は「子どもたち一人ひとりが話し合い活動に意欲的に取り組めるように」でもよいが、学年また は低、中、高学年に応じたゴールも詳しく示す必要があるのではと考える。
- ④ 指標において「イギリッシュタイムを用いて」と限定してしまうとそれに沿っての評価では達成でき ないこともあるので、「イギリッシュタイムや外国語活動、外国語科の学習を通して」と英語に触れ る時間をもつという文言にするほうが良い。
- ⑤ ICT を積極的に活用して、学習活動を行うことができるので今後も学年や学校全体で共有しな がら積極的に取り組みを進めていく。また、指標の「年間計画に沿って」は来年度「情報活用一覧 に沿って」とし、ICT 部会から出される一覧を参考にする。
- ⑥ 各学年が計画し、取り組みを行えている。一方で、国際理解教育の取り組みの基準が明確でない ので学校全体で基準を定めて、来年度取り組む必要がある。(教科学習の中で外国につながりの ある事にふれたら取り組みを行ったとしていいのか。)
- ⑦ コロナウイルス感染防止の観点から、運動制限が多く設けられているが、積極的に体育的行事を 感染防止対策を施したうえで実施していく。